

患者と医師。互いに満足できる 上手な医療機関との関わり方

皆さんは、「大きな病院の方がなんとなく安心」「平日は仕事で忙しいから夜間や休日に診察」など、ともしれば軽い気持ちで大病院や救急外来を受診していませんか？

病気になった本人は、自分が一番辛く思うのが当たり前。しかし、救急外来の現場では、緊急を要する患者を優先するため、待てる症状の患者はどうしても後回しとなります。それは、大病院でも同じこと。精密検査や高度な治療を要する患者が多いため、初診の患者には、待ち時間が長いのに診察時間は意外と短く、診察料が高いといった不満が残ってしまいがちなのです。

病院の機能と役割を知り ストレスのない受診を

私たちのまわりの医療機関では、日常的な病気やけがの治療は診療所やクリニック、手術や緊急性が高い医療など入院が必要な治療は病院と、それぞれの機能に応じて役割分担をしています。逆に、病院の外来に軽症の患者が集中す

ると、急病人や重症患者に対応するという本来の役割を果たせなくなりま

す。例えば、胸が痛いとなった場合、必ずしも心臓の病気とは限らず、病院だからすぐに治るというわけでもありません。日頃から「かかりつけ医」がいれば、患者の状態をすぐに把握でき、もし、専門分野でない場合には、症状に合わせた適切な病院を紹介してくれるのでより安心です。

医療サービスを活用して 安心できる暮らしを

県では、症状に応じて近隣の医療機関の情報を検索できるサービスや、夜間や休日、子どもが体調を崩した時に、看護師や小児科医が電話で相談に応じる小児救急電話相談も行っています。こうした医療サービスをうまく活用し、上手に医療機関を受診することで、精神的にも経済的にもストレスの少ない、満足していく医療を受けることにつながります。また、医療費負担が軽減される各種制度を知っておくことも大切です。

特集 みんなでめざそう、「健康・長生き」

医療と 暮らしと 気配りと

【医療と上手に関わる5つのポイント】

- ・医療機関の役割の違いを知ろう
- ・かかりつけ医を持とう
- ・救急電話相談などサービスを活用しよう
- ・医療費助成などの制度を知ろう
- ・早めの受診を心がけ、治療は中断しないようにしよう

